

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: http://www.konbukuroike.com

2023年6月

第110号

主な予定

園内ガイド

6月7日(水)

10:00~11:00

柏第七小学校(139名)

14:05~14:55

増尾西小学校(88名)

6月8日(木)

9:00~10:00

土小学校(39名)

6月9日(金)

9:00~10:00

松葉第一小学校(159名)

6月19日(月)

9:40~10:20

柏第二小学校(89名)

6月23日(金)

時間未定

高田小学校(75名)

理事長就任にあたって

理事長 萩原 秀夫

4月23日(日)に久しぶりに対面で行われた第14回通常総会において、NPO法人こんぶくろ池自然の森の理事長を会員の皆さんにご承認いただきました。

私がNPOに参加したのは2011年になります。働きながら当時通っていた通信制大学のランドスケープデザインのレポート課題に、「故郷のフィールドワーク」という地域の魅力的な場所を選んで、その課題等を調査・分析するというものがありました。まだ私が柏の葉に引っ越してきて数年の頃で、柏の葉キャンパス駅とららぽーと以外に何かがあるのかも知らず、とりあえず図書館に行って調べているうちに「こんぶくろ池自然博物公園」というランドスケープにぴったりの対象地を発見したというのが出会いでした。

課題提出の為にはそこで活動しているNPOの人の話を聞くのが手取り早いと、初めて公園を訪れ、当時の事務局長であった古橋勲さんから話を伺ったのが始まりで、そのまま次回の活動日に勧誘されてしまったように思いますが、おそらく私もこの森での活動に何か惹かれるものがあつたから会員になつたのかなと、正直はつきりとは覚えていないくらい自然の成り行きでした。

その後このテーマを卒業論文に選ぼうと決意し、その為にはNPOの活動をもっと理解する必要があると思い、学校を1年休学した後に論文を書くこととなりました。

その後2017年に古橋さんが体調不良もあり事務局長を退任され、その翌年に急逝されてしまい、それまでNPOの運営の大半を古橋さんに頼っていたことから、突然NPOの存続そのものが危ぶまれるような事態となりました。当時既に私も理事として会の運営に参画していましたが、突然重い責任を背負つたと感じると同時に、個人に頼るのではなく組織として機能する体制に変革していかなければならないと思ひました。それこそ私が上記の卒業論文の中で、他のNPOの事例も列挙しながら考察したことでもありました。

この点については岡本前理事長も強い危機感と、NPOを潰すわけにはいかないという熱意を持って、在任中の4年間はほとんどがコロナ禍とナラ枯れ対応に追われる中ではありましたが、①「公園維持管理委託業務契約」の見直しを含めた柏市との密なコミュニケーション、②新しいNPO像に相応しい「定款」の改訂、③「ハンドブック及び

池物語」の改訂、④新規会員の募集活動、⑤小学校の校外学習や自然観察会、昆虫観察会、きのこ観察会等の環境教育の充実、⑥調査活動、里山活動の統合という組織の強化を、多くの会員の方々の協力を得ながら整えていただきました。その成果として、2018年には「柏市都市景観賞」、2019年には「市政功労者」表彰を受けた他、先日の日本ユネスコ協会連盟による「プロジェクト未来遺産」登録や、「ちば文化資産」選定に繋がったものと思います。

日本ユネスコ協会連盟の未来遺産とは、『地域の“たからもの”を未来の子どもたちに継承していくための地道な努力を続ける“人”と“活動”に光をあて、応援するもの』ということですので、まさに我々の活動そのものに光をあてていただいたと同時に、「100年の森」を目指して大きな役割をあらためて託されたということでもあります。

私が今回悩んだ末に理事長職を引き受けさせていただき決意に至ったのも、次の10年、20年を見据えた際に、NPO発足前の里山隊・調査隊、あるいはその前の「こんぶくろ池を考える会」の時代から活動されてきた先輩会員の皆さんから、そろそろ次の世代がバトンを受け取るタイミングが来たのではないかと感じたからです。まだまだ先輩会員の皆さんが元気に活動に参加してくださっているうちに多くの知識とノウハウを受け継ぎ、さらに私より若い人達や子供の世代に橋渡しをしていくことが、「100年の森」に繋げていく中継ぎとしての役割かと思っています。

幸い最近、新規会員の募集によって若い会員の方も少しずつ増えてきており、私に続いて、「それならばNPOの運営に協力できることがあるのではないか」と思ってもらえる人が増えてくれば嬉しいなと期待を持っています。

また、組織面においても、NPO発足時からの「創業者型経営スタイル」から、小林達明先生のお言葉を借りると、『市民が主体となって行政と対等に主張し、責任を持ち、科学を尊重しながら民主的に組織を運営している』『組織型経営スタイル』に移行し、理事会を中心に各会員がそれぞれの得意分野で会運営に参画しながら、「やりがい」を感じられる場が生まれつつあると実感しています。

古橋さんがお亡くなりになる直前の「こんぶくろ池通信 2018年5月号」で、このようなことを書かれております。

『・・・・・・・・【市民で育てる100年の森】とは、読んで字のごとく、NPO法人の運営に当たっては【森を育てる】事が重要なテーマと考えておりましたが、活動を続けるうちにそうではないのでは?と思うようになりました。正しくは、本当に育てなくてはならないものは【森】ではなく、【100年の森を育てる】⇒【人】を育てることがNPO法人の運営に当たって、最も必要な事項ではないかと!!!!

【人】が育てば必然的に【森】は育っていく事でしょう。しかし、言うは易し・行いは難しで、・・・(中略)・・・私も今更【人】を育てる事の困難さに立ち向かうには気力も体力もない事を自覚致しました。

事務局長辞任後、この4月からは新しい体制で活動がスタートしておりますが、【森を育てる人】が育ってくればこんぶくろの未来はそれほど悲観することもないでしょう (*^。^*)

***** 入院中の病床からの独り言でした。 H30.4.6 』

ご存知の通り、今年度の理事は4人体制です。どうしても4人では手が足りないこともありますし、週末の定例活動等でも我々4人だけではフォローできないことも出てくると思います。また私自身平日はまだサラリーマンとして仕事をしている身でもあり、理事長職を引き受けさせていただいたものの、十分にその任務を果たせず、その都度他の理事の方々を含め皆さんに頼らざるを得ない場面も出てくるかと思いますが、会員の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

豊四季の原っぱ

橋本谷 弘司

明治11(1878)年に千葉県師範学校構内に千葉中学校が創設されます。

東葛飾郡にも中学校設置を求める声が高まり、大正10(1921)年に県知事と県会に中学校設立の請願書を出しました。資金の調達、学校用地の確保、どこの場所に造るかななどの問題をクリアし、大正13(1924)年に現在の東葛飾中学校・高等学校の場所(旭町3丁目)に設立されました。

八木重吉は大正14(1925)年4月から創立間もない東葛飾中学の英語主任教諭として着任し、校舎近くの職員住宅に居住しました。詩人でもある八木重吉は目の前に広がる3万坪の原っぱを子供たちと散歩することを愛し、その自然を詩の中心的なテーマとしました。そのうちの一編が「原っぱ」です。



八木重吉の詩碑 (国道6号線歩道脇)

ずいぶん
ひろい原っぱだ
いっぽんのみちを
むしように
あるいてゆくと
こころが
うつくしくなって
ひとりごとをいうのが
うれしくなる

まもなく、結核を患い、昭和2(1927)年に29才の若さで短い人生を閉じました。

この原っぱは江戸時代は幕府直轄の軍馬を養成する牧でしたが、明治2年に第4番目の開墾地ということで豊四季と命名されました。吉田甚左衛門(1874~1941年)は江戸時代に花野



柏と詩人 八木重吉 (柏市教育委員会)

井村の名主を務めた豪農吉田家に生まれ明治 19（1886）年に豊四季の開墾地を取得しました。

柏の新たな産業育成や振興策を柏町長浜島秀保らと模索し、競馬場やゴルフ場などの娯楽施設を通じて人を集める構想をたてました。関東の宝塚をめざした吉田甚左衛門は昭和 3（1928）年に柏競馬場を、翌年にはゴルフ場を開設します。柏競馬場の成功は、その利益を教育、土木工事などの町の発展に役立てようとするものでした。昭和 8（1933）年には東武野田線に柏競馬場前駅が開設されます。

戦中の昭和 17（1942）年に閉鎖されていた競馬は昭和 22（1947）年に再開されますが売り上げは振るわず昭和 25（1950）年 2 月が最後の開催となり昭和 27（1952）年に船橋競馬場に吸収されます。船橋競馬場では、第 1 回県営競馬場発祥地「かしわ」の名を後世に伝えるため「かしわ記念」と命名した重賞レースが平成元（1989）年から毎年 5 月ごろに開催しています。

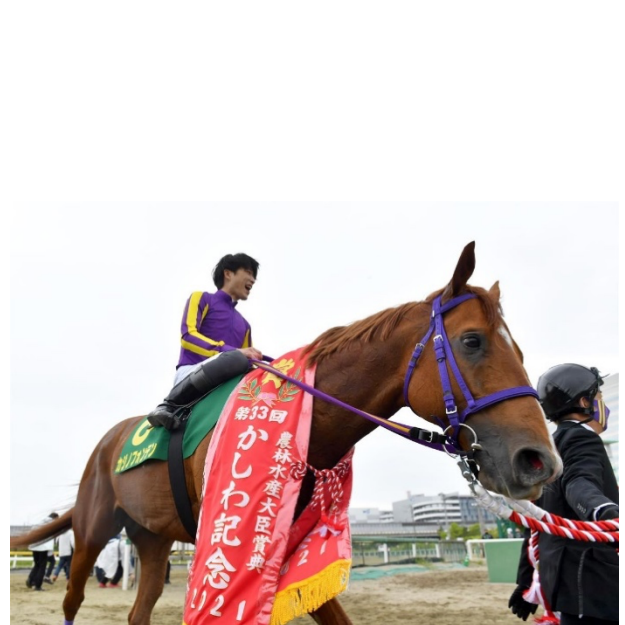
また、柏競馬場前駅は駅名変更をしますが、昭和 30（1955）年に廃止されます。古い地図を見ると、気象大学に接している東側道路の踏切道の柏駅方に設置されていました。現在、その痕跡を残すものは何也没有ありません。

柏競馬場の跡地には、豊四季台団地が建設され昭和 39（1964）年から入居が始まっています。約 4850 世帯、約 1 万人が居住する大団地です。入居から 40 年がたち平成 16（2004）年から低層から高層住宅へと順次建て替え工事が進められています。

時代のニーズに合った土地利用が行われています。



企画展チラシ（柏市みどりの基金）



かしわ記念（サンスポ ZBAT! より）

平成五年春季こんぶくろ池句会・歌会作品集

世話人 松田 和生

俳句の部

藤蔓に肩をつつかれ笑顔かな	あおは もゆ
春霖雨新しい森現る	あおは もゆ
新緑をぬって木道伝う朝	Q太郎
苗代の泥の匂いぞ故郷よ	清美
総会や集うみ空に藤の波	昇多
ウグイスの初鳴き耳に春の朝	中川望
菜種梅雨身をすくませる桜かな	中川望
ツバメ舞う春の小川に菜の花に	中川望
五月雨や新緑横目に防寒着	新山洋子
雪山を映してそよぐ早苗かな	秀夫
母の日に届くギフトに笑顔あり	米山要
田植え時我らの天下とカエル鳴く	米山要
朝早くカッコウが鳴き豆を蒔く	米山要
夕チアオイ梅雨入り前に天辺へ	米山要
下草を刈る手を休め藤見上ぐ	わらしべ

短歌の部

風薫る緑の森は潔し	
森行く人のシャツも緑に	イチケンサンバ
里山に自然を守る有志たち	
特技を生かし安らぎの場を	権兵衛
里山の百年の森保守管理	
ボランティア達汗ぬぐいつつ	権兵衛
花すだれ枝垂れる間には青い空	
藤花好める妣（はは）の笑みに会う	清美
愛犬の澄んだ瞳に見つめられ	
思わず笑みがこぼれた日々よ	中川望
つなげよう未来遺産へ続く道	
たゆまず歩む百年の森	ノー・ボール
春霞む古代ロマンと神の島	
遥かに拝む青い海原	秀夫
今日もまた緊急放送鳴り渡り	
不明の人は何処（いずこ）さまよう	吉川億空
様々な花咲き競う初夏の候	
故人を偲ぶ庭も華やぐ	吉川億空
保護柵を超えて微笑むキンランに	
自然の森の木洩れ日やさし	わらしべ

あとがき

新型コロナの「緊急事態宣言」が終了してホッとしたところです。
 今回は、自然の森をこよなく愛する皆さん、延べ12名の方から俳句15句、短歌10首が寄せられました。春らしく明るく爽やかな作品、生活実態に根差した作品、家族の思い出等に心が揺さぶられま

す。今回は新たに1名の方が加わりました。同好の士は着実に増えており嬉しい限りです。

先日、「NHKスペシャル・コロナ禍・響き合う歌」のなかで、現在短歌は若者の間で大ブームだそうで「何げない日常を記録する日記のようなもの」との解説がありました。俳句・短歌というと何となく堅苦しく思われがちですが、作句・作歌をすることで、老化防止にもなるそうですので気軽に作ってみましょう。

次回は夏季（6月～8月）になりますが、思い立ったが吉日、事務所前の投稿箱の他、世話人あてのメールでも結構ですのでどんどん投稿して下さい。

5月理事会

(日時) 2023年5月28日(日) 13:00～16:00
 (場所) 管理棟
 (出席者) 議長(理事長):萩原
 出席者 (理事) 中川・徳永・上田(書記)
 (会計) 山上・(顧問) 岡本・(監事) 松田

1. 審議検討・確認事項

- (1) 「プロジェクト未来遺産 2022」の登録伝達式について
 - ・ 当日(7/15)までのスケジュール、搬入物や担当等の確認を行った。
 - ・ 当日の式次第等については、開催時間等が決まってから詳細を検討する。
 - ・ アドバイザーの先生方へ出席を打診する。
- (2) 当園リーフレットの一部修正&増刷について
 - ・ 残部僅少につき、第4版第1刷となるリーフレットを編集している。
 - ・ 5/21に柏工房との打ち合わせを行った。
 - ・ 「プロジェクト未来遺産 2022」への登録、「千葉文化資産」への追加選定を追記し、写真の更新、交通アクセス地図、柏飛行場位置図、その他基本情報に現状を反映した修正を加える方向で決定。この内容で発注する。発注部数は5,000部。納期は発注後1週間程度となる見込み。
- (3) 水環境についての打合せ結果について
 - ・ 5/14の東大佐藤先生との打合せを行った。
 - ・ 6月上旬より東大学生8名&先生2名による実習開始(～7月上旬予定)
 - ・ 北側排水路とこんぶくろ池の水面の高低関係の確認、また、水路周辺の地下水の流向を確認する目的で観測を行う。学生実習終了後も、同内容で観測を続ける場合がある。
- (4) 第14回通常総会後の業務について
 - ・ 千葉県への事業報告(環境生活部県民生活課 NPO 法人班)(5/2提出済)
 - ・ 千葉地方法務局での代表者変更登記の完了は6月上旬の見込み

- ・ 損保更改手続き終了
 - ・ (5年毎の) 法人税減免申請手続き終了 (⇒ 柏税務署)
- (5) 定例活動日の飲み物の取り扱いについて
- ・ 定例活動後に茶菓を囲んで水分の補給、休息の時間がもたれ、憩いや交流の場になっている。飲食する茶菓代はカンパによって賄われてきたが、財源が周知されておらず、カンパが集まりづらいのが現状である。
 - ・ 今後は茶菓代を集金するために「カンパ箱」(仮称)を設置してカンパを集めやすくする。
 - ・ 飲み物代がカンパで賄えない場合は、NPO 負担とする。
 - ・ 活動後の飲み物等の準備については、一部の方々に依存せず、当番を中心に会員が能動的にかかわることが望まれる。
- (6) (6/23~25) 標本展示会の準備状況について
- ・ 5/2 に UDCK 担当者との打合せを行った。UDCK との共催とし、会場は UDCK。
 - ・ 植物標本の一部と、千葉昆から贈呈を受けた昆虫標本を展示する。生きている昆虫のコーナー、顕微鏡コーナーも設ける予定。
 - ・ タイトルは「標本展～昆虫と植物の世界～」とする。
 - ・ 広報活動についての確認などを行った。チラシは 300 部印刷し、UDCK、県民プラザ、パレット柏、KAMON、近隣小学校、田中近隣センター、柏の葉サービスコーナー、柏の葉駅前のマンション掲示板で掲示や設置の依頼を行う予定。当公園管理棟前にも設置し、園内にも掲示する。
- (7) (7/22 予定) 夜の昆虫観察会の準備状況について
- ・ T-SITE と開催する。小学 3 年生～高校生(保護者同伴必須・参加者計 20 人名)を対象に実施。
 - ・ ライトトラップ、糖蜜トラップなどを予定。
 - ・ T-SITE の HP で 6 月 1 日から募集開始。
- (8) その他の T-SITE でのイベント実施の可否について
- ・ 今後、11 月頃の開催を軸に、葉っぱスタンプや樹木のネームプレート作り等のワークショップ、などを検討する。
- (9) 6～7 月活動計画
- ・ 協議を行い、計画を策定した。
 - ・ 活動計画記載外の作業を計画する場合は、事前に担当理事に相談し、必要な場合は理事会での了解を得た後に実行する、という従来よりのルールを再度徹底する。
- (10) 6 月の通信記事
- ・ 掲載記事について協議した。

2. 報告事項

(1) 調査

- ① 「植物標本の作成&保管」指導 (5/7 9:00~12:00) (山下・上田・徳永・川瀬・橋本谷・中野・高橋・平岩)

(2) 園内ガイド

- ① 十余二小学校 (88 名) (4/27 10:00~10:50) (徳永・平岩・中野・中川)
- ② 東葛しぜん観察会 (40 名程度) (5/14 9:00~12:00 頃 (川

瀬)

- ③ 柏第四小学校 (128名) (5/23 12:55~13:35) (上田・徳永・橋本谷・川瀬・宗像)

(3) その他

- ① カシニワ・フェスタ2023 (5/13~21) 土・日の4日間のカウントされた来園者は154名
- ② 【ちば文化資産】への「こんぶくろ池自然博物公園」追加選定決定の連絡受領 (5/9)
- ③ 一号近隣公園秋水燃料庫保存打合せ (5/16 15:00 現地) (文化課・柏歴史クラブ・文化財保護委員・NPO (岡本・上田))
- ④ 柏市国際交流センター主催の「春の交流ウォーキングツアー」で当園に来園 (5/14 11名) ⇒ 次回同様のイベントを実施する場合は事前に「案内申込書」を提出してくれば、無料でガイドを行う旨を連絡済。当日は、当番が対応して案内を実施 (平岩・上田)
- ⑤ 千葉県立中央図書館より「池物語」の追加送付 (1冊) の要望受領 (5/12) ⇒対応済

3. 今後のスケジュール

(1) 調査

- ① 東大久保田先生トラップ調査補助 (1回目: 6/16&17 2回目: 8/18&19 3回目: 10/6&7)

(2) その他

- ① 【ちば文化資産】6/15 (木) 県民の日に、そごう千葉店で「ちば文化資産選定セレモニー」を実施予定
- ② 東大 佐藤先生指導による水環境に関する学生実習 (6月上旬~7月上旬)
- ③ 「関東ブロック・ユネスコ活動研究会」にて当NPO活動の報告 (9/3 青山学院大学にて)

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

新入会員紹介

横川 清さん



参加動機：野鳥が棲める環境を守る

貢献できそうなこと：調査

趣味・好きなこと：トレッキング、野鳥撮影

ひとこと：こんぶくろ池でオオタカを撮影したい